

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	敦賀市立子ども発達支援センター パラレル 放課後等デイサービス事業所		
○保護者評価実施期間	令和7年12月15日		令和8年1月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	99 (回答者数)	90
○従業者評価実施期間	令和7年12月15日		令和8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ 過ごしやすい(わかりやすい) 環境づくりを行っている	・ 活動に合わせて遊び方やルール、手順などについて視覚的な手掛かりを用いて説明したり、確認している。 ・ その日利用するお子さんが過ごしやすいように、毎日、部屋のレイアウトや活動の流れなどを変えている。	・ 構造化されたわかりやすい環境の中で、コミュニケーションや人間関係などの支援をすすめる。
2	・ 定員20名が一緒に活動することは難しいため、2～3グループに分かれて活動している	・ 年齢や特性に配慮したクラス分けをすることで、同じ活動でも、低学年・高学年で活動の「ねらい」を変えるなど、年齢に合わせた取り組みができる。 ・ 同年代で過ごすことで、トラブルが起こることもあるが、お友達同士で学びあうことができる。 ・ 特性に合わせて、過ごしやすい環境を提供できる。	・ 同じクラスで活動することが多いが、放デイ全体での活動や、縦割りでの活動など、年上・年下のお友達と遊ぶことで、同年代とは違う学びができることよい。(年上の人には丁寧に話す、年下の子には優しくするなど)
3	・ 毎月1回、土曜開所イベントを実施している	・ 児童発達との合同イベント、放デイのみのイベント、保護者やきょうだいで一緒に参加できるイベントなど、様々な内容を企画することで、昨年度に比べて、参加者が増えた。 ・ こどものみで参加できるイベントは、参加しやすいようなので、実施回数を増やした。	・ 毎回楽しみにして参加してくださる方が一定数おられるが、新たな参加者が増えるよう、イベントの内容や時間などを検討する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ 保護者への情報提供(公表している情報の認知度が低い)	・ ホームページなどに掲載している情報も、アンケートでは、“わからない”“認知していない”と書かれる方がおられた。 ・ 支援プログラムや各種危機管理マニュアルなどは、作成しているが、保護者に周知ができていなかった。	・ 昨年度のアンケートでも同様の記載があったため、今年度は月1回お知らせを発行し、活動予定や内容の報告などを行った。一昨年に比べると、“分かりやすくなった”“楽しみにしている”との声をいただけたため、必要な情報が保護者に届くよう、内容を見直した。
2	・ 日々の活動の様子について保護者とやりとりする機会が少ない。	・ お迎えに来ていただく時間が重なっていることもあり、様子をお伝えできないこともある。 ・ 送迎に出る職員がおり、当日担当した職員から様子を伝えることが難しいことがある。 ・ 送迎を利用しているお子さんが半数近いが、当日担当した職員が送るわけでないため、様子を伝えることが難しい。	・ 当日担当した職員が、できる限り、お迎え時、送迎時の対応ができるよう配置する。 ・ お迎え時、送迎時以外に、保護者に様子をお伝えできる方法を検討する。 ・ 新しく導入するICTシステムを活用する。
3	・ 中高校生向けのプログラムの実施	・ お手伝いなど、社会生活に役立つプログラムの実施も行っているが、活動については、小学生と一緒に取り組んでもらう場面も多い。 ・ 市内の中高校の利用が増えているが、“居場所”としての希望も多くなっている。	・ “居場所”としてのニーズが増えているため、来年度から、中高生対象の日中一時支援を行うことにした。 ・ 中高生のニーズを把握するとともに、社会に向けて、必要なプログラムを実施する。